

〔 横浜みなとみらいホール 〕
令和 7 年度業務計画及び収支予算
〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

1 施設の概要

施 設 名	横浜みなとみらいホール
所 在 地	横浜市中区みなとみらい 2-3-6
構 造 ・ 規 模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 1 階地上 7 階建て
敷 地 ・ 延 床 面 積	専有延べ床面積 18,688 m ²
開 館 日	平成 10 年 5 月 31 日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2 産業貿易センタービル 1 階
代 表 者	理事長 近藤 誠一
設 立 年 月 日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	平成 10 年 2 月 1 日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜みなとみらいホールの基本方針及び横浜市が進める「文化芸術創造都市」の施策に沿い、企画性が高く新しい視点を提供する事業展開によって国内有数のコンサートホールとしての独自の存在感を高めていきます。それと同時に音楽の持つ力によってもたらされる憧れや喜びを市民の方が最大限に享受し、夢を実現できる場所として愛されるコンサートホールであり続けることを大切にします。これまでの経験とノウハウも総動員しながら第 3 期の提案書に示した各使命を果たし、豊かな市民生活を支えるとともに、今後直面する様々な課題をも解決していくために、次の 5 つの方針で横浜みなとみらいホールの運営に取り組みます。

方針 1 あらゆる世代の市民が創造性を発揮し活力のある持続可能な社会を支えます

「演奏する」、「聴く」、「制作する」という立場の垣根を意識せず、柔軟に自由に音楽と接する機会を増やし、演奏家の創造性を高め、主体的に音楽を楽しむ市民の方を増やします。第三期指定管理期間は、演奏家が“ミュージシャン・プロデューサー”となって公演や事業を制作する取組を行います。プロによる公演のほかに市民の方の利用率がとても高いことも当館の特徴です。指定期間を通じて、「制作する演奏家」と「演奏する市民」を応援し、増やしていくことで、年齢や性別、既成の立場に関係なく、心を柔軟にし、新しい発想を生み出す土壌を育み、活力ある社会の実現を目

指します

方針2 次世代育成や社会包摂に対する取組をさらに発展させます

年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等に関わらず、誰もが心豊かに暮らせる社会を支えるために、音楽は大きな力を発揮します。当館では、これまでも障害のある方が参加する事業を積極的に行ってきましたが、これをインクルージョンという視点で、音楽の力をさらに活用し、さらに様々な立場の人々への取組に広げていきます。

方針3 困難な状況において音楽がいかに人々の心を支えていくものであるかを示します

感染症の影響によって、音楽活動だけでなく、人々とのふれあいによる心の安らぎが触まれることがないよう、市民の方が生の音楽に触れ、感受性や想像力を育む機会を作り出します。指定期間を通じて、小さな演奏規模のコンサートや臨場感のあるオンライン配信による音楽体験など、あらゆる工夫で臨機に対応できる運営を目指します。

方針4 高い芸術性と創造性を発揮し街の魅力を発信するブランドとなります

住む人、働く人がこの街を誇りと感じられる価値と魅力を発信するブランドとしての信頼を形作り、国内外で高い評価を受ける演奏者が更に創造性を発揮する機会を作り、また、次世代を担う若者が公演の企画や運営を継続することで、高い芸術性と創造性が発揮されるコンサートホールとしての信頼を確立します。ユニークベニューとしてのMICE誘致への協力も含め、好循環を生み出すことを目指します。

方針5 市民が生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります

質の高い生の芸術が生み出される瞬間に立ち会い、そこでしか感じるることのできない刺激に感性が触れることによって聴く力、観る力、感じる力が育まれます。横浜みなとみらいホールは、年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等にかかわらず、このような経験によって、市民の方が生きる喜びを感じ、多様な価値観を得ることで、生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります。

(2) 令和7年度の業務の方針

ア 全体について

令和7年度は第3期指定管理の4年目となります。1年目にリニューアルオープン、2年目は開館25周年と華やかなアニバーサリーが続き、3年目の令和6年度はリソースやプログラムの見直し・事業再構築のため、館全体の足元を固める方針をとりました。残り2年間となる令和7年度は、今期指定管理の総仕上げに向けて、蓄えた力を土台に各使命に基づく取組みの成果を最大化させ、市内唯一のクラシック専門ホールとしての価値や魅力を力強く発信します。そのための令和7年度キーワードは「発展形」。施設一体となって、これまでの取組みの丁寧な振り返り・価値の顕在化を推し進めつつ、新たな連携も創出していきます。

主催事業は、“横浜の地域性を広く拓く”とともに、これまでの取組みの流れのなかでの“発展形”に挑戦します。「プロデューサー・イン・レジデンス」では、第3代プロデューサーに横浜の顔として全国的に活躍する石田泰尚氏が就任します。新井館長が掲げる“市民に愛されるホール”を原点

に、改めて横浜の地に目を向けることによって、地元ファンの掘り起こしや、横浜の子どもたちに豊かな音楽体験を届けます。また、日本で最初にパイプオルガンが建造された街として、開館以来、多彩なオルガン事業を実施してきたひとつの発展形として、横浜発の新たなオルガン協奏曲の委嘱・世界初演を行います。横浜独自の新たな音楽を生み出すことで、横浜の音楽文化の底上げも図ります。また、横浜市から引き継いだ重要な事業「横浜市招待国際ピアノ演奏会」を次代につなぐため、「横浜市招待国際ピアノ演奏会」のファンづくりに取組みます。更に、インクルージョン事業は、ノウハウを施設外と共有することで、今後の充実を目指します。令和7年度は、当館では初となる邦楽版「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」を横浜能楽堂と連携で実施。財団の他施設が保有するインクルージョンの蓄積を学び、今後の事業発展の契機とします。更に、当該事業を他県（福井県・ハーモニーホールふくい）への研修事業として当館がノウハウを共有します。これにより、インクルージョン事業を牽引する施設として存在感を発揮するとともに、あらゆる市民に広く開かれた場としての認知を高めていきます。

広報については、これまでのメディアとの関係性の発展に努めます。券売促進や事業 PR に留まらずに、ホールの価値と魅力を広く発信することでプレゼンスの向上につなげます。また、市民にとって音楽が身近に感じられるよう、SNS も引き続き積極的に活用することで、横浜みなとみらいホールのファン層拡大に努めます。

施設運営は、プロフェッショナル、アマチュアを問わず、ご利用者の活動への理解を深め、高いコーディネート機能を発揮することによって、各公演を成功に導きます。また、引き続き、レセプションистやチケットセンタースタッフの研修など人材育成に力を入れ、質の高いサービスの提供に努めます。

施設管理は、令和6年度に策定した館内における災害等対応マニュアルを活かし、引き続き、すべてのご来場者やご利用者が安心して楽しめる環境を提供できるよう努めます。安心安全な施設を提供するために、設備の不具合は速やかに横浜市へ報告し、優先度を見極めて適切に対応します。

最後に近隣連携では、令和7年度も引き続き、横浜市内外の多様なステークホルダーとの連携・協働を推進し、横浜の地域性や音楽文化の新たな可能性を拓きます。都心臨海部に集積する音楽施設で構成される Music Port Yokohama や横浜市の大規模イベント「Live! 横浜」に協力することで、エリア内唯一のクラシック専門ホールとしての存在感を発揮するとともに、都市の賑わいづくりや横浜の魅力発信に貢献します。

イ 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

3代目となる「プロデューサー・イン・レジデンス」にヴァイオリニストの石田泰尚を迎えます。横浜を拠点に活動し、地域の顔ともいえる石田と共に、今一度地域のステークホルダーとの関係性の強化に取り組めます。また、先進的オルガン事業を積み重ねてきた当ホールならではの、唯一無二の創造性あふれる演奏会を実現し、存在感を示します。横浜で生まれた歴史ある継承事業の発信を強化し、さらなる発展に向け取り組みます。

ウ 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。

国内プロオーケストラをはじめとした質の高い公演をはじめとして、地域の音楽事業者や音楽団体による優良な公演の誘致を行います。誘致した公演は協力公演としてメールニュース、公演カレンダーなど当館メディアを活用して主催公演とともに広報 PR に努めます。あわせて多様なご利用者様に対して、利用受付から利用終了まで快適にご利用いただけるよう必要な情報を提供するとともに、舞台技術者とともに公演当日まで丁寧にサポートします。

エ 使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

“演奏する人・聴く人・つくる人”それぞれが、柔軟に立ち位置を変え、さまざまな立場で音楽と親しみ、新しい体験をもたらす場を創出します。音楽を介した人と社会との関わりのなかで、多様な考えに触れ、受け入れる心を育み、よりよい社会を形成する一員となることを支援します。令和7年度も、子どもたちによる演奏会の制作、ジュニアビックバンドの運営、プロを目指す子ども達のためのソリストオーディション等を通じ、子どもたちの可能性を後押しします。

オ 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出します。

あらゆる人が音楽に触れる喜びを享受するための機会創出に引き続き取り組みます。横浜みなとみらいホールが積み重ねてきた事業を継続するとともに、インクルージョンの分野では当ホールの事業の知見を他都市のホールに共有・展開し、共生社会の輪を広げます。

「音楽の街・横浜」の中核的コンサートホールとして、周辺に集積する R&D や大学等とも連携しながら、あらゆる人達が音楽と出会う機会を多角的に創出します。

カ 使命5 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献します。

・管理運営

持続可能なホール運営を実現するため、引き続きサービスの質の向上と運営の効率化に取り組みます。あわせてすべてのご利用者様、ご来場者様が安心してコンサートホールで演奏会を楽しめるよう危険防止と危機管理に努めます。

舞台業務、設備運転監視業務、清掃業務、警備業務、託児サービス業務、ドリンクサービス業務などホール運営にとって不可欠となる業務を、財団の諸規定に則り適切に専門会社へ委託します。各社担当者とは定例的または必要に応じて打ち合わせの場を設けホール運営にかかる様々な課題の解決に取り組みます。

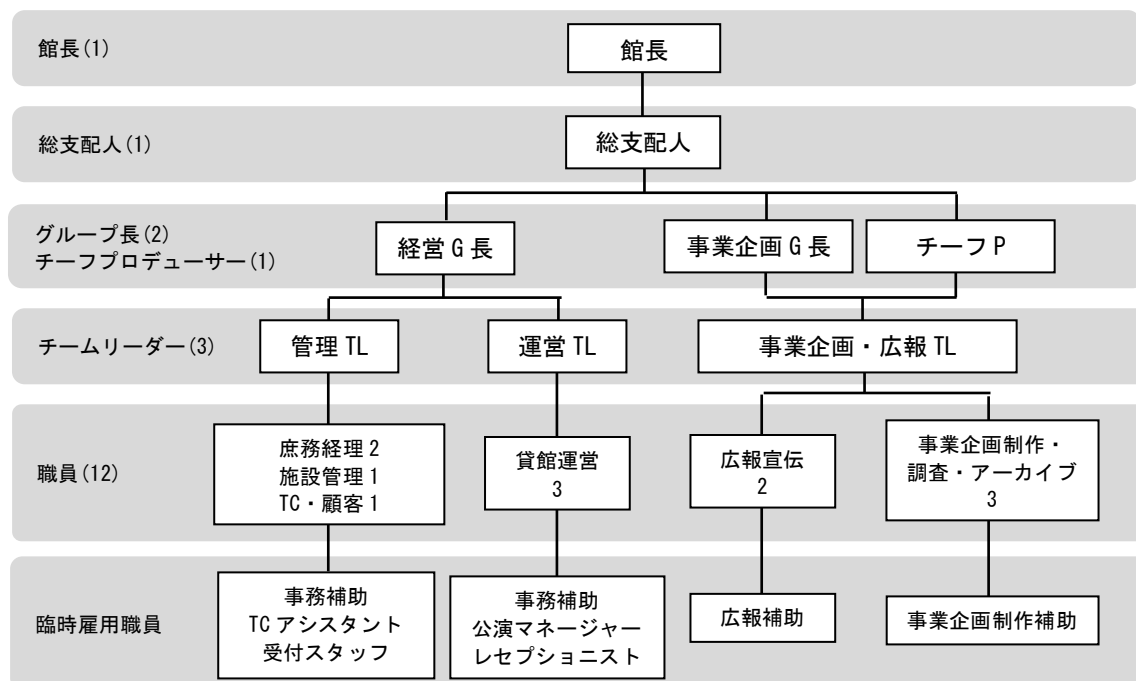
・近隣連携

「音楽のまち」として都市ブランディングの機運が高まる周辺環境を好機と捉え、みなとみらい 21をはじめ、近隣商業施設や地域の多彩なステークホルダーとの連携にも積極的に取り組み、横浜の魅力発信に貢献します。

・人員体制

事業企画グループでは財団が組織として育成する音楽の企画制作力を有するプロデューサー

を専門人材として配置するとともに広報発信力を高めるための人員を配置します。経営グループではホール貸館営業、運営を担うための適切な人材、経理、施設管理を法令に則り適切に推進できる人材などを配置します。あわせて、チケットセンター、レセプションист、受付スタッフを引き続き統括管理し、組織力・発信力の向上と効率的な運営と質の高いサービスを提供します。



G 長…グループ長 TL…チームリーダー P…プロデューサー TC…チケットセンター

・人材育成

業務の基準及び提案書に則り、施設運営に不可欠な人権研修、個人情報保護研修などを実施します。財団が施設職員を対象に行う各種研修、神奈川県公立文化協会や横浜市の主催する各種研修や施設見学会などに参加、ホール運営に必要な専門性、マネジメント能力の向上を目指します。

接客サービスレベル向上のため、レセプションист及びチケットセンタースタッフの新規採用時研修や、フォローアップ研修に加えて、スタッフのサービス介助士資格取得を推進します。

・収支

事業においては、収益を見込む大ホール公演と、公共ホールとしての使命を果たす普及啓発事業とで強弱をつけ、収支均衡を目指します。助成金、協賛金他、多様な収益の確保に努めます。

提案書に記載の利用料金収入目標額の確保に向けて取り組みます。利用の中止による空きが出た場合は積極的に広報 PR するなど様々な手段を講じて利用を促進します。

光熱水費の執行については引き続きエネルギー料金単価等高騰に対応するため、空調負荷の高い大小ホールについて季節に応じた幅のある温湿度制御を行うなど節減策を講じます。施設設備の故障に際しては速やかに横浜市へ報告するとともに、予算の範囲内で優先度の高いものから修繕を実施します。

・広報

メディアとの情報交換や関係構築に努め、事業の発信にとどまらず、横浜みなとみらいホール
の公共ホールとしての存在意義や活動の意義の発信に取り組みます。近隣企業や観光・文化施設
との連携によりリニューアルに向けた休館期間や新型コロナ感染症等の期間の距離を縮め、地域
と一体となった発信を仕掛けます。「音楽の街・横浜」を打ち出す街のブランディングに寄与し、
市内唯一のクラシック音楽専門ホールとしてのプレゼンス向上を目指します。

4 使命の指標の達成状況

- (1) 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創
作の拠点となります。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項目			R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	ホー ル に お け る ジャ ン ル 別 の 公 演 回 数 及 び 入 場 者 数	公 演 数	クラシカル	35 本	27 本	41 本	—	—	31 本	—
			ポピュラー	3 本	2 本	6 本	—	—	2 本	—
		入 場 者 数	クラシカル	21, 230 人	32, 000 人	39, 207 人	—	—	40, 000 人	—
			ポピュラー	2, 514 人	2, 500 人	6, 695 人	—	—	3, 000 人	—
2	横浜みなとみらいホールなら ではの企画数			12	10	19	—	—	12	—
3 ★	プロデューサー・イン・レジ デンス事業			4 事業	6 事業 (累計)	8 事業 (累計)	—	—	15 事業 (累計)	—
4 ★	新作委嘱作品と過去委嘱作品 再演本数			4 作品	4 作品 (累計)	8 作品 (累計)	—	—	10 作品 (累計)	—
5 ★	おとなポップス公演数			0	2 企画 (累計)	3 企画 (累計)	—	—	10 企画 (累計)	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	横浜みなとみらいホールの事業モニター（※）による評価	R 4 実績	リニューアル記念事業 3 公演で事業モニター実施 (10/29 神奈川フィルハーモニー管弦楽団、11/3 井上道義指揮 NHK 交響楽団、11/25 近藤岳オルガンリサイタル)
		R 5 達成指標	4 つの事業に対し、事業モニター実施（リニューアルオープン事業（2022 年のみ）、おとなポップス、オルガンコンサート・シリーズ、ジルヴェスターコンサート、クラシック公演（2023 年以降））
		R 5 実績	4 事業に対し事業モニター実施（4/21 横浜うたまつり、5/10 ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、6/9Dive into the Future、12/31 石田組年末感謝祭 2024）。事業モニター懇談会を併せて実施し、モニターの意見を次年度事業や日々の運営に反映しました。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	モニタリングの結果、対応すべき事柄について事業に反映されている
		R 8 実績	—
2	横浜みなとみらいホールの事業等のアーカイブ作成と公開	R 4 実績	アーカイブ立ち上げに向けた準備、資料整理
		R 5 達成指標	アーカイブの立ち上げ（データの整理・公開までの仕組みが確立される）
		R 5 実績	ウェブサイトデジタルアーカイブページ作成 「横浜市招待国際ピアノ演奏会デジタルアーカイブ」公開。横浜市の財産といえる 40 回にわたる演奏会の記録を公開し、市民の資産として還元しました。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アーカイブ更新・運用（適宜、動画公開。対象事業の認知拡大・事業趣旨の理解が深まる）
		R 8 実績	—

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組む事項

第 3 代プロデューサー・石田泰尚と、3 つの事業に取り組みます。1 つ目は、室内楽普及プロジェクトの始動、2 つ目は注目の若手演奏家と向き合うデュオ公演、3 つ目は好評を博す「石田組年末感謝祭」です。

パイプオルガン事業では、令和 5 年度に公演延期となった「鈴木雅明オルガンリサイタル」を、

満を持して開催します。欧州を拠点に活躍する指揮者・作曲家の阿部加奈子には、新作オルガン協奏曲を委嘱し、近藤岳のパイプオルガン、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏にて、初演演奏会を開催し、後世に受け継がれるオルガン協奏曲を横浜から生み出します。

横浜で歴史を積み重ねてきた伝統ある事業「横浜市招待国際ピアノ演奏会」は、さらなる発信強化に向け、規模を拡大して開催します。

(2) 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動を提供する。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	各諸室の利用率(コマ単位、日単位)	大ホール (日単位)	100%	97%	95%	—	—	97%	—
		小ホール (日単位)	98%	97%	98%	—	—	98%	—
		リハーサル室 (日単位)	81%	68%	62%	—	—	71%	—
		音楽練習室 (コマ単位)	60%	82%	70%	—	—	85%	—
		レセプション ルーム (コマ単位)	33%	35%	32%	—	—	40%	—
2	プロフェッショナルのオーケストラ、アーティストの指定 管理者以外の公演数		81	90	95	—	—	100	—
3 ★	利用下見・相談件数		55 件	150 件	107 件	—	—	150 件	—
4 ★	利用者アンケートによる満足 度 (5 点満点)		ホール 4.8 練習室 4.3	4.7 以上	4.8	—	—	4.7 以上	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	市内音楽団体の活動状況把握	R 4 実績	実施せず
		R 5 達成指標	市内音楽団体リスト整備・運用
		R 5 実績	施設予約システム内に蓄積整備している施設利用者の利用履歴や演奏曲目、公演運営の状況、来場者数などのリストを拡充するため、約 500 団体に対して調査を実施（回答数 156 件）。組織形態、活動拠点、活動内容、課題等について把握。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新とともにホール利用時の助言等に生かす
		R 8 実績	—

ウ 使命 2 を達成するために重点的に取り組む事項

国内プロオーケストラの誘致に際しては本番利用のみならずリハーサルの優先利用を進めるなど質の高い公演の実現に貢献します。プロ、アマチュア問わず利用団体の活動へ理解を深め、良質な公演の誘致を進めます。

また、次期指定管理者提案に向けて協力公演の現状をまとめ、今後の在り方について確認するための機会を設けます。

(3) 使命 3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げる。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	子ども（高校生以下）の来館者数	27,797 人	主催公演 35,000 人	31,084 人	—	—	主催公演 40,000 人	—
2	初めて横浜みなとみらいホールを訪れた人の割合（世代別、アンケート結果）	20.3%	全世代 20%	34.0%	—	—	全世代 20%	—
3 ★	こどもの日コンサートの企画に参加した中学生の人数	27 人	30 人 (累計)	47 人 (累計)	—	—	40 人 (累計)	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもの頃や若手の頃に横浜みなとみらいホールで活動を行い、横浜みなとみらいホールから活躍の場を広げていったアーティストの状況把握	R 4 実績	調査
		R 5 達成指標	アーティストリスト作成（現状の把握）
		R 5 実績	「金の卵」ソリストオーディション受賞者(83名) 調査およびリスト作成。 リストを元に令和5年度・令和6年度自主事業への登用を検討・実施。 (令和5年度 2/12「ランチタイムコンサート」、3/24「2525 コンサート」、令和6年度「ハマの JACK スペシャルコンサート」)
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新・主催事業への起用（MMH ゆかりの人材の還流・認知拡大）
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

市内中高の弦楽合奏部を石田泰尚が指導する「弦楽合奏部応援プロジェクト」に2年かけて取り組みます。一流のプロの演奏に触れることで、音楽に親しむ中高生たちが、新たな意識を拓くきっかけをつくれます。

「子どもの日コンサート」への中学生プロデューサーの企画参加を継続します。中高生によるジャズ演奏活動「みなとみらい Super Big Band」「10代のためのパイプオルガン・レッスン」「心の教育ふれあいコンサート」「みなとみらい遊音地」等、若年層の来館を推進するプログラムを計画的に実施、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

- (4) 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人たちが音楽に触れる機会を創出する。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	3 事業	5 事業	6 事業	—	—	3 事業	—
2	学校等へのアウトリーチの実施数	5 事業	5 事業	7 事業	—	—	5 事業	—
3 ★	特別支援学校との協働プロジェクト数	1 件	2 件	2 件	—	—	2 件	—
4 ★	支援学級との協働プロジェクト数	1 件	4 件	3 件	—	—	2 件	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	あらゆる方に音楽に触れてもらうためのノウハウの蓄積	R 4 実績	これまでの取組整理
		R 5 達成指標	マニュアル作成（ノウハウの見える化・施設内共有）
		R 5 実績	インクルーシブ事業一覧作成および、事業実施マニュアル作成。文化施設などへの提供や他都市での事業実現への相談対応等を開始。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	マニュアル更新（区民文化センター等とのノウハウの共有）
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

インクルージョン事業連携として「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」邦楽バージョンを横浜能楽堂と取り組み、ノウハウの相互共有を実現します。また本事業を軸とし、当ホールのインクルーシブ事業の知見を他都市の劇場（ハーモニーホールふくい）に提供する研修事業を1年かけて行い、インクルーシブ事業におけるリーダーシップを発揮します。

夏休み事業「みなとみらい遊音地」「だれでもピアノ®体験」「オルガン・1ドルコンサート」等の事業を継続すると共に、みなとみらい地区の「ミュージック・シティ構想」の中核的存在として、京セラ株式会社 みなとみらいリサーチセンター、神奈川大学、横浜 MM21 ロータリークラブ等とも連携しながら、あらゆる人達が音楽と出会う機会を多角的に創出します。

(5) 使命5 利用者の視点に立ち、継続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献する。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項 目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	—	—	0 件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	104%	90%	約 426%	—	—	90%	—
4 ★	施設・設備の更新状況を把握し、事業継続計画策定	危機管理マニュアル作成	危機管理マニュアル再整備	危機管理マニュアル再整備	—	—	危機管理マニュアル検証	—
	災害マニュアルに則った災害訓練	1 回	2 回	3 回	—	—	2 回	—
5 ★	地域における連携先の開拓（施設、企業）	4 件	1 件 (累計)	7 件 (累計)	—	—	5 件 (累計)	—
6	S N S フォロワー数	11, 181 ※R5 年 2 月現在	8, 000	11, 400 ※R6 年 3 月末 時点	—	—	10, 000	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング （アンケート調査、インタビュー調査の実施）	R 4 実績	アンケート調査実施
		R 5 達成指標	利用者懇談会など実施
		R 5 実績	事業モニター参加者との懇談会を実施。また、利用者へのアンケートを継続実施するとともに、市内音楽団体の活動状況調査結果を基に、テーマを設けてヒアリング（懇談会）の実施を検討中。－
		R 6 実績	－
		R 7 実績	－
		R 8 達成指標	ヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	－
2	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	改修工事後の光熱水費等のデータ収集
		R 5 達成指標	実施（労務単価やエネルギー単価など外的要因の動向、月々の光熱水費使用量を逐次把握し、過去データと比較分析を行う）
		R 5 実績	労務単価やエネルギー単価など外的要因の動向を把握し専門業務委託設計時に反映。光熱水費について月々の電気、冷温水、水道使用量を逐次把握し、過去データと比較分析を行いながら年度の執行計画に反映し余剰分を適切に活用した。
		R 6 実績	－
		R 7 実績	－
		R 8 達成指標	総括（管理運営費に関わる外的要因を踏まえて適切に契約を執行するとともに、光熱水費使用量の分析結果を全館空調の制御等に活かしている）
		R 8 実績	－

3	リニューアルオープンに際してのウェブサイトでのアピール	R 4 実績	実施（ウェブサイト更新）
		R 5 達成指標	実施（ウェブサイト更新 情報更新等に関わる取扱マニュアル作成）
		R 5 実績	実施。ウェブサイト更新マニュアルを作成。これにより、ホールスタッフのみならず、利用者による入力が円滑に行われ、お客様への円滑な情報提供が可能となった。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	継続（必要に応じてマニュアルが更新され、ユーザビリティの一層の向上が実現している）
		R 8 実績	—
4	横浜みなとみらいホールに関するコメントの把握	R 4 実績	コメント把握
		R 5 達成指標	把握（来場者・利用者のコメントを把握するスキームの確立）
		R 5 実績	ホール代表メールに寄せられたご意見、レセプションに寄せられたご意見、自主公演アンケートに寄せられた各種ご意見について随時担当者が確認。週次の会議にて協議し迅速な対応を行っている。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	総括（多様なコメント・問い合わせに対し、スムーズに対応できている）
		R 8 実績	—

5	リニューアルオープンに向けてのスタッフ育成	R 4 実績	レセプションист採用研修、フォローアップ研修実施
		R 5 達成指標	研修実施等（スタッフの経験に応じた研修計画が立案・実行されている）
		R 5 実績	レセプションист研修について計画に基づき適切に実施（新人、コーチャー、チーフ研修、スキルアップ研修、防災訓練等基本研修に加えて、サブマネージャー研修、コミュニケーション研修など特別研修を実施）受付スタッフについては経験に応じたスキルアップ研修を実施。 これらの研修については、社会情勢や現場からのフィードバックを計画に反映させ、必要な分野や適切な講師選定（内部・外部）の検討を行い、個々のスキルとチームワークの向上に役立てた。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	スタッフの経験に応じた研修計画が実施され、必要に応じて修正されている
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

ホール運営のポイントを分かりやすくまとめ、利用者との打合せで丁寧に確認を行います。音楽練習室のウェブ予約については引き続きご利用方法に関する情報を広く周知し登録者数の増加に取り組めます。

ホール運営の要となるレセプションистおよび受付スタッフを適切に配置するとともに、エントランスへの警備員とともに館内における様々なケースを想定した危機管理に努めます。また、ホール運営に関係する様々なリスクについて対策を講じる際は横浜市、近隣文化施設等と情報交換を密に行います。

「音楽のまち」として都市のブランディング確立を目指す横浜みなとみらい 21 が設置する「Music Port YOKOHAMA」や、横浜市と都心臨海部の音楽施設が一体となって創り上げるフェスティバル「Live! 横浜」に参画し、エリアの賑わい創出に協力するとともに市内唯一のコンサートホールとしてのプレゼンス向上を図ります。

新聞各社文化部で構成される音楽記者会所属記者への定期的なメディア訪問、記者懇談会、大型事業での取材会を継続します。社会的課題においてホールが果たす役割を意識して発信し、記事化を目指します。また、魅力あふれる出演者やオルガニスト、制作を担うプロデューサー等、ホールに関わる人々の声や街の魅力を、ウェブサイト、SNS 等メディアミックスで積極的に発信し、「顔の見えるホール」を目指します。

来場者アンケートより、定量的にニーズを把握すると共に、寄せられたコメントを把握し対応することで、公演のチケット販売促進や利用者サービスの向上につなげます。

令和7年度 横浜みなとみらいホール 収支予算書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	537,246,000	0	537,246,000	0	537,246,000	人件費スライドによる見直し額 10,129,000円、 物価高騰支援7,217,000円を含む
利用料金収入	207,850,000	0	207,850,000	0	207,850,000	施設利用料・附帯設備利用料
市教育委員会共催事業受託料	22,241,000	0	22,241,000	0	22,241,000	「心の教育ふれあいコンサート」企画制作費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0	0	0	0	0	
自主事業収入	62,413,000	0	62,413,000	0	62,413,000	自主事業入場料・講座料等
助成金・協賛金・負担金収入	27,655,000	0	27,655,000	0	27,655,000	文化庁、民間財団助成金、企業協賛金等
雑入	6,198,000	0	6,198,000	0	6,198,000	
雑収入1（印刷代等）	2,554,000		2,554,000		2,554,000	コピー、ゴミ処理、物販手数料等
雑収入2（増員）	704,000		704,000		704,000	レセプションист、警備員増員代
チケット販売手数料	1,320,000		1,320,000		1,320,000	チケット販売手数料
自動販売機手数料等	240,000		240,000		240,000	自動販売機、ドリンクコーナー販売手数料
ドリンクコーナー販売手数料	200,000		200,000		200,000	
駐車場利用料収入	0		0		0	
その他（繰入金）	1,180,000		1,180,000		1,180,000	財団事務局からの繰入金収入
収入合計	863,603,000	0	863,603,000	0	863,603,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	258,754,000	0	258,754,000	0	258,754,000	
給与・賃金	213,367,000		213,367,000		213,367,000	職員・臨時雇用職員給与
社会保険料	24,977,000		24,977,000		24,977,000	事業者負担分の社会保険料
通勤手当	14,946,000		14,946,000		14,946,000	職員・臨時雇用職員通勤手当
健康診断費	191,000		191,000		191,000	
勤労者福祉共済掛金	108,000		108,000		108,000	
退職給付引当金繰入額	5,165,000		5,165,000		5,165,000	
事務費	43,185,000	0	43,185,000	0	43,185,000	
旅費	517,000		517,000		517,000	職員出張交通費
消耗品費	6,363,000		6,363,000		6,363,000	事務所および利用者用消耗品、舞台消耗品等
会議賄い費	20,000		20,000		20,000	来客用ドリンク代
印刷製本費	400,000		400,000		400,000	ホールロゴ入り封筒等印刷代
通信費	2,907,000		2,907,000		2,907,000	郵送費、電話代、ネット回線使用料等
使用料及び賃借料	13,677,000	0	13,677,000	0	13,677,000	
横浜市への支払分	170,000		170,000		170,000	行政財産目的外使用料
その他	13,507,000		13,507,000		13,507,000	主催者用駐車場、ソフトウェアのライセンス使用料等
備品購入費	1,060,000		1,060,000		1,060,000	
図書購入費	0		0		0	
施設賠償責任保険	136,000		136,000		136,000	施設賠償責任保険、動産保険料
職員等研修費	600,000		600,000		600,000	スタッフ研修参加費
振込手数料	628,000		628,000		628,000	銀行振込手数料
リース料	303,000		303,000		303,000	IT機器リース
手数料	2,196,000		2,196,000		2,196,000	クレジットカード手数料、制服クリーニング、廃棄物処理
運営系委託費	13,602,000		13,602,000		13,602,000	チケット予約発券サービス、施設予約システム保守、託児委託等
地域協力費	776,000		776,000		776,000	各種会費、地域イベント広告出稿等
事業費	118,071,000	0	118,071,000	0	118,071,000	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0		0	
市教育委員会共催事業費	24,203,000		24,203,000		24,203,000	「心の教育ふれあいコンサート」事業費
自主事業費	93,868,000		93,868,000		93,868,000	自主事業費
管理費	356,850,000	0	356,850,000	0	356,850,000	
光熱水費	117,282,000	0	117,282,000	0	117,282,000	
電気料金	43,218,000		43,218,000		43,218,000	電気料金
ガス料金	68,064,000		68,064,000		68,064,000	DHC冷温水利用料金
水道料金	6,000,000		6,000,000		6,000,000	
設備運転・清掃費	109,996,000		109,996,000		109,996,000	設備運転監視、設備保守点検、清掃費
修繕費	2,120,000		2,120,000		2,120,000	小破修繕費
機械警備費	357,000		357,000		357,000	機械警備費
設備保全費	102,882,000	0	102,882,000	0	102,882,000	
空調衛生設備保守	0		0		0	設備運転・清掃費を含む
消防設備保守	0		0		0	設備運転・清掃費を含む
電気設備保守	1,750,000		1,750,000		1,750,000	電気設備保守点検費
害虫駆除清掃保守	0		0		0	設備運転・清掃費を含む
駐車場設備保全費	0		0		0	駐車場は主催者用を賃借
管理系委託費	95,687,000		95,687,000		95,687,000	舞台スタッフ委託、有人警備委託、舞台機構・客席椅子保守点検等
その他保全費	5,445,000		5,445,000		5,445,000	パイプオルガン、ピアノ保守点検・定期調律
共益費	24,213,000		24,213,000		24,213,000	クイーンズスクエア横浜管理組合費
公租公課	26,815,000	0	26,815,000	0	26,815,000	
事業所税	0		0		0	
消費税	26,673,000		26,673,000		26,673,000	
印紙税	120,000		120,000		120,000	
その他（法人税）	22,000		22,000		22,000	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	59,928,000	0	59,928,000	0	59,928,000	
本部分	59,928,000		59,928,000		59,928,000	財団事務局への繰入金支出
当該施設分	0		0		0	
二一ズ対応費	0		0		0	
支出合計	863,603,000	0	863,603,000	0	863,603,000	
差引	0	0	0	0	0	